



第19回アジア知的障害会議 参加報告

11月22日から26日まで、開催国のシンガポールで、13カ国の参加による第19回アジア知的障害会議が開催され、ぱれっとからの参加者も含め日本から56名、全体で529名が参加しました。

●大活躍をした仲間たち

一昨年の台湾での会議で初めて実施された障害者自身の発表が今回も引き続き行なわれ、堂々とした態度に圧倒されました。これまで、会議は教育者や障害福祉関係者の発表が主でしたが、障害のある本人の声を直接伝えようと各国に呼びかけた成果が実ってきたと感じました。先回は日本と台湾の2カ国に留まりましたが、今回はインド、シンガポール、台湾、日本の4カ国から17名が分科会に臨み、参加国の積極的な姿勢が伝わってきました。日ごろの生活や就労、余暇活動などを通して積み重ねてきた経験豊かな内容は、「私たちが抜きにして決めないで!」という説得力のある発表となりました。ぱれっとを代表する林利枝子さんの発表もすばらしいものでした。障害者によるワークショップでは、それぞれのお国柄も感じられる和気あいあいとした雰囲気の中で盛り上がり、一人ひとりの笑顔が印象的でした。台湾の会議で親しくなった人たちとの懐かしい再会、そして次回の開催国、韓国で

また会いましょうと約束を交わす新しい仲間との交流の輪は、これから益々大きくなることでしょう。楽しみです。

準備から会議終了まで日本発達障害福祉連盟の沼田さんを始め、スタッフの皆さんにお世話になり感謝しています。

NPO 法人ぱれっと理事長 谷口奈保子

●報告

シンガポールにて開催された第19回アジア知的障害会議に参加させてもらい、5日間を通してさまざまな人と出会い、多くの新しい学びがありました。

特に会議の中で行なわれた本人発表では、本人が自分の言葉で「思い」を伝えることの大切さを実感しました。「私たちのいない所で私たちのことを決めないでほしい」「自分のことは自分で選び、自分で決めさせてほしい」自分たちのことを自分たちで変えていこうとする力強い本人の声はもっと多くの人に届けていくべきものであると感じました。一方的に援助をするのではなく、一緒に話し合いながら、共に「すべての人が当たり前で暮らせる社会」をつくっていく。そのために本人の声にもっと耳を傾ける必要があると感じました。

大会2日目に元おかし屋ぱれっとの通所員であり、現在はスターバックスジャパン株式会社で働く林利枝子さんが本人発表を行ないました。原稿づくりの段階から関わらせてもらい、約3ヶ月前から一緒に準備を進めてきました。本番は少し緊張しながらも、堂々と落ち着いて発表しました。彼女の家族、仕事、夢への思いは会場にいたすべての人に伝わったと思います。



【本人交流ワークショップ】

本人が自分の言葉で伝えることの意味は私が予想していた以上に素晴らしいものでした。今後も本人活動の場を広げていくことが、人々の意識を変え、そして社会を変えていくことにつながっていくのだと思います。このような期待をもつことができる貴重な5日間でした。

ぱれっとインターン 黒澤友貴

●参加者の感想

★報告者：林利枝子さん★

私はシンガポールの分科会で自己紹介から家族の事、仕事をするまでの道のり、現在働いているスターバックスコーヒーマーの事、私の趣味や好きな事、私の夢など一生懸命伝える為、行って来ました。最後の最後まで緊張(初体験)でした。スターバックスコーヒーマーの仕事の質疑応答で、私のメモの事を聞かれ、精一杯私なりに答えを述べました。皆に囲まれた中、無事に終わって、仕事の責任を強く感じました。聞きに来てくれた人にとっても感謝しています。

★報告者・親：林紀之さん★

発言者のひとりが「知的障害者」という呼名でなく、別の呼名を考えて欲しいとの提案があり、皆で真剣に思考せねばと強く思いました。それから日本から参加した本人による分科会を聞かしてもらいました。みな緊張していたようですが、わかり易く話されよく理解できました。なかでも山形から参加された 齋藤広美さんの英語と日本語によるプレゼンテーションは圧巻で、充実した内容と表情豊かな話しぶりに、会場は大いに盛り上がりました。

★撮影者：菅原重成さん★

再び撮影冥利の会議に参加できて嬉しい限りです。2年前の台湾と同様に今回のシンガポールでも個性豊かな本人の方たちと国を越えて出会い、腹の底から大笑いしたり、涙が止まらなかったり、大切なことを教えてもらったりと充実した撮影ができました。特に日本から参加の皆さんの表情は前回よりも自信に溢れていたように映りました。他の国からも本人の発表が増えてどの部屋も盛り上がりました。現在映像を編集中！ご期待ください。

★日本発達障害福祉連盟事務局長

：沼田千好子さん★

第19回アジア知的障害会議が終了しました。通常の同会議に比べると会期が1日短かったのですが、それを感じさせない内容の濃いものでした。その理由の一つは言うまでもなく「障害当事者の活躍」ですが、もう一つは同時通訳の存在でした。通訳により外国人との議論や交流が自在にできたことが参加された方々の意欲を高めたのです。そして、通訳を配置することができたのは、ぱれっと関係者始め皆様のご支援があったからです。本当にありがとうございました。



【林利枝子さんによる本人発表】

☆☆☆☆☆☆ご寄付いただき、ありがとうございました☆☆☆☆☆☆

山本基金様、東京都共同募金会様、パークレイズ・キャピタル証券株式会社様、富士ゼロックス株式会社様、富士ゼロックス端数倶楽部様、社団法人日本発達障害福祉連盟様、社団法人精神発達障害指導教育協会様、井澤静枝様、柏木雅枝様、長谷川啓子様、太田勲様